



大会長挨拶

日本フォレンジック看護学会
第5回学術集会 大会長 船山 健二
(前・新潟刑務所 法務技官看護師)

このたび、『現代社会におけるフォレンジック看護の役割—犯罪被害と加害への対応から—』をテーマに、2018年9月1日(土)・2日(日)の両日にわたり、新潟市の新潟日報メディアシップを会場として、第5回学術集会を開催させていただきます。

看護学分野において、今日まで「受刑者の看護」については、あまり問題関心が向けられておりませんでした。当学会では、これまでどちらかというと性犯罪被害者の支援に焦点が当てられてまいりました。

しかし本来、“フォレンジック看護”が扱う事象には、被害と加害があります。被害、加害という事象は、生活者が暮らしている社会で生じるものです。このような背景から、学術集会では、加害者側の切り口からテーマを設定いたしました。

取り扱う事象が複雑なことから、看護学を主軸に据えながらも、近接の学問分野からもご講演を賜り、より立体的にフォレンジック看護を創造していく機会となることを期待し、基調講演、特別講演、教育講演を依頼しております。

このほかにも企画を準備し、みなさまのご参加を心からお待ちいたしております。

当学術集会は、フォレンジック看護に関する、日頃の看護実践、教育・研究の成果を発表する貴重な場でもあります。性、暴力、虐待、犯罪、更生保護など、予防から健康被害に対する介入・支援まで幅広く一般演題を募集しております。みなさまから、お寄せいただく一般演題の充実が、真に実りある学術集会となるためには欠かせません。

実行委員一同、ご参集いただくみなさまにとって、有益な時間と場となり、さらに、ご参集いただいたみなさまを通じて、本学術集会での学びが、フォレンジック看護の対象に還元できる。このような学術集会の運営を目指し、準備を進めております。

このたびの学術集会は、地方での開催となりますが、初秋の新潟 !!
美味しい食・お酒、温泉... とともに、みなさまをお迎えいたします。

2018年2月27日